

【歴史点描 5】和久の鎮守の森「荒神社」

JR網干駅南口のロータリーから、ゆるやかに弧を描いて県道まで伸びる駅前通り。その通りの西側、岩見井の用水との間に、和久の「荒神社」、通称「こうじんさん」は鎮座しています。『網干町史』には「明治43年に稲荷神社及び扇神社の合祀の発令により新しく創建された」と記されています。でも、荒神信仰の歴史や主祭神の素盞男命からみて、合祀前から「かまどの神」や「農業の神」などとして祀られていたにちがいません。^{うかのみたまのみこと}倉稲魂命、^{したどのかみ}級戸神は、それぞれ稲荷神社、扇神社の合祀神です。早ければ明治30年代の奉納と思われる玉垣には、網干・岩見・新宮の各銀行の本支店や播州素麺会社など、法人名が多く刻まれています。ありし日の駅前が想像されるではありませんか。

鎮座地は和久の小字「^{ひら}平ゲ」で、『姫路市町名字考』は、平定を意味する戦国時代の遺跡だろうと記述していますが、集落がある河岸段丘上の小字「妙見」北端の平らなところ、または平坦地の下を表すのではないのでしょうか。ともあれ、駅前通りができる前は、村はずれの社でした。鳥居が見当たらないのはちょっとめづらしく感じますが、そんなに広くはない境内には、狛犬一對、常夜灯2基、手水鉢、百度石などの石造奉納物が多くあります。よく剪定された樹木や藤棚が奉納され、「鎮守の森づくり」のプレートも掲げられています。氏子によって大切に祀り守られている様子がうかがえます。

網干歴史講座 会員 菅野 稔博



玉垣（左）網干銀行本店、（上＝左から）新宮銀行網干驛支店・播州素麺会社・岩見銀行網干驛支店・龍野運輸会社網干驛支店